



しながわ

平和のための戦争資料展

'90 第7回

城南大空襲・被爆45周年

8/8~11

「地域から戦争を見つめなおそう」

心新たに
戦争の真実を見つめ
核兵器廃絶と平和を願う



展示内容のご案内

◎広島・長崎の原爆		
投下日時	広島	長崎
投下日時	1945年8月6日 午前8時15分	1945年8月9日 午前11時2分
投下爆弾	ウラン原爆	プルトニウム原爆
手びき名	リトル・ボーイ	ファット・マン
重量	約4トン	約4.5トン
高さ	長さ約3m 直径約0.7m	長さ約3.5m 直径約1.5m
爆発威力	約15キロトン	約22キロトン
放出エネルギー	約14兆カロリー	約20兆カロリー
被爆者人口	約42万人	約27万人
1945年12月末までの死者	14±1万人	7±1万人
1950年10月(戦後初の国勢調査)までの死者	約20万人	約14万人

全国空襲被害地図

地図のもり上がりは死者数を示す



空襲で50万人近くが死亡するという大きな被害をもたらしました。そのうち、いったいどの子どもは何人死んでいったのか、その数はいまだにわかりません。

被爆45周年

1945年8月、広島(6日)と長崎(9日)への原爆投下から45周年を迎えました。第二次世界対戦末期、すでに日本の敗北は決定的になっていました。そのような時期に原子爆弾が、広島(リトルボーイ)と長崎(ファットマン)に投下されたのです。二つの街は「瞬時に”みな殺し”の惨禍にみまわれました。全滅した家族も多く、行方不明で死んだと思うよりしかたのない人も大勢いました。被爆し生き残ったおおよそ50万の人々はいまでも原爆後遺症に苦しんでいます。

1945年3月1日、太平洋ビキニ島沖の水爆実験で、多くの漁船が放射能をあびてしまいました。その漁船のひとつが第五福竜丸(夢の島に保存)です。このときの水爆は広島に落とされた原爆の1000倍以上の力を持つ爆弾だったのです。

地域と戦争

1945年5月24日未明、城南地域が空襲にあい、多くの民家、国民学校等が焼失しました。たくさんの犠牲者もでました。国民学校にスポットをあててその実態を明らかにしました。また、それ以前に空襲が激しくなるにしたがって区内の小学生(国民学校児童)はそれをはかれるために、多摩地区や、静岡、富山、青森県に家族と別れて疎開していました。区内には、原爆慰霊碑、満州開拓慰霊碑、機銃掃射痕のある基石など、戦争の爪あとを残す遺跡があります。それにかかわる資料を展示しました。



主催・しながわ

「平和のための戦争資料展」実行委員会

戦時下の保育所

戦争の激化とともに、成年男女は、戦場や、軍需工場へとかりだされていきました。このような状況のもと、放り出された乳幼児を母親にかわって守る施設として託児所が増加し、さらに、ますます本格化する爆撃から逃れて保育所の疎開も行われました。こども達、親や保母さんの思いは・・・どんな生活をおくったのか・・・

こども達が2度とこんな思いをせぬように、私達は真実を伝えていきたいと思っています。



経路

今年5月、韓国のノテウ大統領の来日によって、天皇のお言葉をめぐる日本政府の朝鮮に対する戦後処理の問題が大きくクローズアップされました。今日本には、約70万人の在日朝鮮人がいますが、このことは、1910年の日本の朝鮮植民地化とまじりなすことはできません。なぜ朝鮮人が日本に来なければいけなかったのか。また、連れてこられた(強制連行)のか。第二次世界対戦下、どのような状況の中で生きてきたのか。品川の地域に住んでいる在日朝鮮人の方々から聞いたことを手がかりに考えていきたいと思っています。

戦争と教育そして天皇

今、教育現場に指導要領の名のもとに「君が代・日の丸」が強制的に持ち込まれようとしています。新指導要領では、日露戦争を指揮した東郷平八郎を教えることになっています。(6年歴史)また、神話が登場してきます。戦争の中の天皇に視点をあて、いまの教育のあり方を問いかけたいと思っています。

高校生平和ゼミナール

別室での映画、大型紙芝居、ペープサートや折り鶴の企画に参加します。



戦争中の遺品、写真、諸資料を御出品ください

